

# コミュニケーション英語の教科書が目指す方向

西光 義弘

このたび *COMET English Communication I* を編集するにあたり、代表者を務めさせていただいた西光です。これまで20年にわたって数研出版英語教科書の編集に携わってきましたが、指導要領の改訂により科目が一新されたため、「コミュニケーション英語」という新しい教科書作りに気持ちも新たに取り組むこととなりました。

これまでの教科書編集の経験を生かしつつ、新しい科目の特性に柔軟に適應することが必要となりました。

## 1. 本書の特色

### ① 高校生に身近で多彩な題材

題材は様々なものを検討しましたが、実際に教科書を使って指導する立場の高校の先生方の意見を聞き、高校生の視点で理解しやすく、感情移入できるような題材を選びました。また、説明文だけでなくメール文、インタビュー、プレゼンテーションなどの様々な形式をそろえ、飽きないように変化をつけることを旨としました。この題材の選定については高校の先生方の意見が貴重な役割を果たしました。

### ② やさしいながら、自然な流れをもった英文

基本的に日本語での書き物を探索し、そのテーマに関する情報を集め、そのなかで取捨選択しました。材料を目の前において、自然なまとまりをつけるように英文を作っていました。その作業での方針は英語的な文章の流れになるように務めました。この過程では、大学教師、高校教師および英語母語話者の著者陣が率直な意見を述べ合い、十分納得がいくまでとことん議論し尽くしました。理想的な形にできなかった場合には次回まで棚上げにし、さらに材料を探すことも再三でした。チームワークをする場合に遠慮があると、欠陥が残ってしまうことがありますが、今回のチームについては自信をもってその

ようなことはないと言い切ることができます。高校の先生方も実際の教室での反応についての的確な予想をしていただき、理想的な組み合わせであったと言えます。

## 2. この教科書を通して学んでほしいこと

いわゆる4技能は有機的につながっているものですから、1つずつの技能に集中しているように見える場合にも残りの3技能につながった学習を心得るべきです。

各レッスンの英文は表現に有用なものをを用いていますので、テキストを読むときにそれをを用いて表現する意識をもってほしいと思います。練習問題もその方向に向けてスキルをつけることを狙っています。読むときに理解した構文を使うつもりで確認することによって表現力が増すことはよく知られています。いわゆる英借文という考え方です。

音声面においても音声学の知見では発音できる音だけが聞き分けられるという理論があり、話すことと聞くことは密接につながっています。

英語の個別の発音についてつかみやすい要領で英語らしい発音ができるように工夫しました。正しい発音ができるようになれば、聞き取りの力も比例して伸びることが期待できます。

本書は4技能が有機的につながるように工夫されています。ぜひこのことを念頭に置き、授業を進めていただければ幸いです。

今回の教科書編集を通じて、新しい指導要領のもとで行われる授業がよりよい方向に進むことを期待しています。また、私たちの作った教科書がその一助になればと切に願っています。

神戸大学名誉教授  
(*COMET English Communication I* 代表著者)